

## 積極的な読書のすすめ

ーファミコンを少し休み 本を読もうー

開倫塾

塾長 林 明夫

### 1. はじめに

寺山修司の作品に「書を捨て町に出よう」というのがある。本ばかり読んでいないで社会の中でも勉強しようという意味も含まれていたかと思うが、私は、「ファミコンを少し休み本をじっくり読もう」と訴えたい。では、どのように本は読めばよいのか、本を読むきっかけをどうつかんだらよいのか、秋を迎える9月でもあるので今回はお話しをしたい。

\*この「みにむ」の「開倫塾の時間」のページは、生徒の皆さんだけでなく、社会人の皆様にも読んで頂き、できるだけ家庭の中に「知的雰囲気」を漂わせて頂きたく執筆しております。読者の皆様の積極的な読書を期待いたします。

### 2. 興味をもつことがなにより

ものごとをする場合には、目標がある方がただダラダラやるよりははるかにエネルギーが出、その結果よい成果が出ることが多いことは、皆さんよく御承知のことと思います。読書(本を読む行為)も同じで、何の目的や興味もなく目の前に本があるから読むというよりは、自分の好きなものだから読むとか、ある一定の目的があるから読む方が、読んでいて楽しいし、成果も出ると考えられます。読書に結果・成果など求めるのはおかしい、ナンセンスだという考えもあるでしょうが、何の意味もなく目の前に活字があるから目にするよりは、はるかによいと考えます。

問題はどのようなきっかけで本を読み始めるかです。私は回転寿司が好きなので時々食べに行きます。中でも、イカとネギトロとマグロが好きなのでそれらを中心につまみます。クルクル廻ってくるのを全部食べたなら、必ずおなかをこわしますのでそうはしません。

時々誘って下さる方がいるとカラオケにも行きます。好きな歌は三つあります。宇都宮の松井ピテオという印刷会社の会長の松井さんのお世話で、中国浙江省杭州市の印刷会社の薫事というのをやらせて頂いておりますので、「無錫旅情」。栃木県日韓親善協会に入らせてもらっているのでチョー・ヨンピルの「プサン港へ帰れ」。足利高校の同級生に売野雅雄氏という作詞家がいるのでチェッカーズの「涙のりクエスト」。この三つがよく歌わせて頂く歌です。以前、足利にある大豆生田さんのやっていらっしゃるカントリー酒場というところへ行きましたら、他にお客さんが余りいなかったせいか、カラオケを入っている順からどんどん歌わせてくれました。歌は好きなのではじめは面白かったですが、何曲か歌っていて息が切れしました。やはり気に入った歌だけで十分という気がしました。

今年のお盆過ぎに大学のゼミの同窓会が久しぶりに開かれたので出掛けてきました。同窓生の一人に芥川賞作家で何年か前に亡くなった中上健二という小説家の編集者を、亡くなる寸前までしていた加島多恵子さんという友人がいました。編集者としてどのように小説を作家に書いてもらうのかについて話をずっと聞いているうちに、都はるみを復活させるきっかけをつくった、中上健二の作品である「天の歌」という小説を急に読んでみたくなりました。小説は、日本の中では漱石や、芥川、鷗外、藤村、最近の人では村上春樹、外国ものではサリンジャー、ジェフリーアーチャー、シドニー・シェル

ダンくらいしか最近では読んでいないので、非常に刺激になる話でした。

\*シドニー・シェルダンの「天使の自立」は早く発売日の10月1日がこないかと思います。中学のクラスメイトで、しばらく漫画の原作者で牛二郎という人のアシスタントをやっていた中村幸夫君という友人がいます。その当時は会うと、漫画の原作はどのように作るのか、それを絵を描く人とどのように協力して一つの作品にしていくのかを彼から聞かされました。すると、いままでのマンガの見方を全く別の観点からマンガに接するようになりました。私はタバコを吸わないので、タバコを吸う人と同じくらいはマンガを買って読んでもいいと考え、ビッグコミックの定期刊行されているのは、オリジナル・スピリッツ・ゴールド・スペリオールと全て読むようにしています。最近では、優れた日本のマンガは、江戸時代の浮世絵をはるかに凌ぐ芸術性があると確信するに至っているほどです。足利出身のジョージ秋山氏がビッグコミック・ゴールドに描いている、二宮尊徳の伝記「最愛の人」などはすばらしい作品です。

私の仲の良い方に、以前岩波映画などの映画監督をなさっていた末松茂という方がいます。その方から、映画の歴史や映画の作り方のお話を何回となく聞かせて頂くと、映画を見る目が以前と全くといってよいほど異なった自分自身に驚くほどです。バック・トゥー・ザ・フューチャーの全3巻や、インディーズ・ジョーンズの全シリーズなどはどんな構想でつくられたのだろうと考えるとワクワクします。黒沢明や今井正の作品など何回見ても新しいところだらけです。今度の市川崑監督の「47人の刺客」などは、見たいな一という気持ちでいっぱいになります。

8月下旬に村山首相がベトナムやマレーシアを訪問しました。新聞やラジオ・テレビでは、首相の訪れた国のことがかなり詳細に紹介されていました。そのような報道に接し、もし、ベトナムやマレーシアに興味や関心が出てきたら、積極的にベトナムやマレーシアの勉強をするのも面白い。二つの国の歴史や地理、人々の生活について書いてある本を読みビデオを図書館で見せてもらうのも面白い。来週二つの国を訪問すると仮定して、いろいろなガイドブックを読んでみると興味がつきません。日本との関係はどうなっているだろうと考え始めれば、本当の意味での「国際理解促進」の良い勉強のスタートが切れます。

いろいろな観点から物事をするときの「きっかけ」の話をさせて頂きましたが、物事をするときには、何事によらず「きっかけ」があります。余り気負わないで、自分自身の身の回りで出会った人や、身近に接することの出来る方々から良い話や情報を聞く努力をし、興味を持つようにしてほしい。反社会的なことや人間の道に反することでない限り、知的好奇心は大いにもって、どんどん勉強することをおすすめします。その中で一番役に立つことが「読書」(本を読むこと)であります。

### 3. 「書き抜き読書ノート」のおすすめ

本を読み終わったら「書き抜き読書ノート」にたとえ一行でも、その本の印象深かったところを「書き抜く」ことをおすすめします。十代の前半から読書のたびごとにこのノートを取り出しメモし続けられれば、そのノートは必ずあなたの宝物となり、あなたはきっと有数の「読書人」になることができます。時々思い返したようにそのノートを取り出し、書き抜いた文章を口ずさめば、その内容があなたの人格そのものまで高められることすらあります。是非お試しください。

\*この文をお読み下さった社会人の皆様も是非この「書き抜き読書ノート」をお試し下さい。これから生きねばならない50年以上の歳月をかけて、「書き抜き読書ノート」つけ続けられれば、内面的に充実した人生が送れること疑う余地はありません。是非お試しください。